

医薬品事業の成長に伴い、医薬品の製造を受託する医薬品開発製造受託機関（CDMO）が注目されている。背景には各モダリティー（治療手段）に対する製造ニーズが高まっていること、製造難易度の高まりやアツトソーシングの普及により多数の製薬企業が医薬品製造をCDMOに外注していること、一度受注を得られることで、自国でワクチン

ば安定した収益が期待できる」と一部モダリティーにおいては他業種における製造ノウハウが活用できることなどが挙げられる。

## CDMOの動向と展望

### 国際化・専門性高度化力ギ



藤安次郎

特に平常時ではバイく、事業成長とパンデミック対策の両方を視たままのこと、パンデミック（世界的大流行）禍の教訓から各国政府は国内外でのワクチンや必須医薬品の製造を推進する施策を進めており、日本においても厚生労働省

や経済産業省などが設備投資や人材育成に対する支援策を打ち出している。

CDMOの動向と展望

野に入れていることがうかがえる。

競争激化も想定

しいかじ取りが求めら

れる。

今後の成長のカギ

ていることながら、

各CDMOは自国内での事業にどどまらず、能性食品や化学原料、バイオ燃料など、発酵技術や微生物・細胞を活用した「バイオものづくり」として幅広く事業拡大できる可能性

を秘めている。

バイオものづくり」は従来

り」であるが、医薬品の製造にどどまらず機

会社の事業においては、

CDMO事業が起点となつて医薬品事業を

含めた「バイオものづくり」事業が成長し、

グローバルなプレゼン

スを獲得することを期

待したい。

無断転載・複写禁止